

平成24年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

1. 研究の概要

プロジェクト名	発表者視点によるリフレクションを通じた大学生のプレゼンテーション技能の育成		
プロジェクト期間	平成24年度（当初の計画が遂行されたため、申請期間を短縮する。）		
申請代表者 （所属講座等）	松尾 剛 （教育心理学講座）	共同研究者 （所属講座等）	杉村智子・友清由希子・黒川雅幸・生田淳一 （教育心理学講座）
取組方法・取組実績の概要	<p>本研究の目的は、大学教育におけるプレゼンテーション（説明）技能の育成のための方策を検討することであった。特に、発表中の視線配分という身体的側面に注目し、発表者視点から撮影されたVTRを用いてリフレクションを行うことの効果について探索的に調査を行った。</p> <p>2012年度後期に実施した心理統計の自主学習会において、小型のカメラを頭部に装着しながら心理統計についての説明を行うことを学生に求め、そのVTRを用いて説明過程における視線の推移を記述した。また、初回のVTRを学習会に参加していた学生に視聴させながら、各自が気づいたこと、感想、学んだことなどについての自由記述を学生に求めた。これらのVTRデータおよび自由記述データについて、記述的分析、カテゴリー分析を行うことで、発表者視点を強調したリフレクションを行うことの効果について示唆を得た。</p> <p>（なお、本プロジェクトは2年計画であったが、当初想定していた調査計画を本年度で実施可能であったため、申請期間を1年間に短縮する。）</p>		
研究成果の概要	<p>本研究の成果は以下の2点である。</p> <p>(1)説明の内容が困難になり、発表者がうまく説明できなくなるほど、発表者の視線はフロアの聞き手に配分される時間が短くなり、資料や板書に細かく推移するなどしていた。すなわち、視線配分は、説明者の状態を反映する指標となりうる可能性が示唆された。</p> <p>(2)発表者視点のリフレクションの特徴として以下の点が示唆された。</p> <p>①“説明”という観点からの教材・教具への注目：「黒板の記入スピードに配慮しながら授業を進めている。」といった回答に見られるように、教材や教具の役割や機能について、説明との関係に位置づけた省察が促された。</p> <p>②フロアとの相互作用への注目：聴いている側の反応が全くと、話をどのくらいのスピードで進めてよいか話し手も不安になるということが、映像を通して感じられた。」というように、話し手と聞き手の相互作用過程として説明をとらえるという視点が引き出された。</p> <p>③説明者の感情状態への注目：今回の自由記述の特徴として、説明者の説明の仕方やスキルといった側面だけでなく、説明中の感情の側面にも注目した内容が引き出されていた。例えば、「聴取者の反応がないと困るだろう、というか、怖いな一と感じた」「フロアの反応が薄いと、もう一人の発表者に助けを求めるように見る。」といったものである。教師の仕事を支える感情制御（感情の適切な表出、活用、切り替え）の技量を促すためのリフレクションの方法として、本研究の知見を活用していく可能性が想定される。</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について〔 <input type="checkbox"/> （該当事項）にチェック方願います。〕			
外部資金獲得申請（予定）	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他 （ ）	研究成果の公表方法（予定）	<input checked="" type="checkbox"/> 学会（国内）：日本教育工学会にて発表予定 <input checked="" type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等：日本教育工学会論文誌に投稿予定 <input type="checkbox"/> その他：

